

新宿通信

NO. 112

- 模試受験時に気を付けたいこと
- 分野別模擬講義実施
- 赤本が入荷しました

私が数学を専攻してしまった理由

数学科 矢野優輝

大学を卒業して都立高校の教職員となって11年目、新宿高校にいらっしゃる多くの先生方からすると、私はまだまだ経験の浅い若輩者ですが、これまで担任として進路に悩む生徒たちと面談を重ねる中で、最も多く受けた質問は、「先生はなぜ大学で数学を学ぼうと思ったのですか?」というものでした。この質問に答えようとすると、つい話が長くなってしまい、生徒主体の面談から脱線してしまうこともありますし、青春を謳歌できたか怪しい学生時代の記憶も次第に曖昧になってきているので、この新宿通信への寄稿の機会に、「なぜ数学を専攻してしまったのか」(これは単に数学という少数派の学問を選んだことへの皮肉を含めた表現です…)について、過去を振り返りながら、自身の備忘録として簡単にまとめてみようと思います。

高校入学を控えた当時、私は中学校の少し変わった選択授業の影響で、「ラングレーの問題」(有名な求角問題)や「ハノイの塔」(数理パズル)、算数オリンピックの問題などに触れる機会がありました。まだ数学に傾倒していたわけではありませんでした。そして、新宿高校の皆さんと同様に、入学式前には春課題が配布され、それに取り組みながら高校生活への期待と不安を抱いていたのを、今でも懐かしく思い出します。春課題の内容は、英語科からは【キング牧師に関する副読本の読解】、社会科からは【世界地図とともに国名150個を暗記する】など多岐にわたっていました。中でも数学科からは【青チャートを用いた「数と式」の予習】に加えて、【指定された本2冊のうち1冊を読み、感想文を書く】という数学の課題としては少し意外に思える内容が課されていました。その2冊とは、「天才の栄光と挫折」と「心は孤独な数学者」というタイトルで、いずれも数学者たちがどのような苦悩や葛藤を抱えながら、人類の数学史における偉大な功績を残してきたのかを描いたもので、彼らの人物像に迫ることで、数学者の人間味が感じられる内容でした。特に「天才の栄光と挫折」に登場するアンドリュー・ワイルズがフェルマーの最終定理を証明するまでの過程には、強く心を動かされました。300年以上にわたる数学者たちの研究と発見の積み重ねが、ついに証明へと結実するという壮大なストーリーに触れ、それまで無機質に感じていた数学が、まったく異なるものとして私の中に立ち現れたのです。まさに、数学に対する認識が大きく変わった瞬間でした。

こうして、数学という学問の奥深さと魅力に惹かれた私は、気がつけばそれを専攻する道を選んでいました。大学進学後には、大学数学の抽象度の高さに愕然としたことや、関数解析の研究室に自分以外の希望者がおらず、教授とマンツーマンで週2回のゼミ発表を続けたことで心が折れそうになったこともありました。ここに記すには紙面が狭すぎるので割愛したいと思います。

最後に、皆さんに考えてほしいのは、私にとっての数学と同じように、皆さんも琴線に触れる何かがきっとあるはずだということです。そして、それと出会うのがいつになるかは分かりませんが、自分の心が動かされる瞬間をどうぞ大切にしてください。高校から先の進路は十人十色、自分次第です。

○模試受験時に気を付けたいこと

11／4（火）（3年生のみ）、5（水）に模試を行います。

3年生のベネッセ駿台共通テスト模試は、今月4日に行った記述模試と合わせて国公立大学の判定が出ます。いよいよ受験校決定に大きくかかわってくる、重要な目安となる模試と言えます。

1, 2年生は進研模試を行います。1年生は、7月の模試ではまだ中学校の範囲の復習も多く、高校受験の「貯金」である程度点が取れていた人もいるかもしれません。今回の模試で、高校生としての本当の力が試されます。2年生は前回の模試で1年時から大きく成績を落としている人が目につきました。受験はまだ先、と思っているかもしれません、ここで基礎的な力を確立することが、1年後の自分を楽にしてくれます。

【模試を受ける際の注意点】

誰もが経験しがちなケアレスミスや、試験後の「本当はもっと得点できた」は模試だけで済めばよいのですが、本番の入試でも往々にして起ることがあります。こうしたミスを減らすことも模試を受ける目的です。模試のときから心掛けて、本番に備えましょう。

また、試験時間が限られた模試では、時間をどのように使うかをシミュレーションする絶好の機会です。すべての問題を試験時間内に解答して、しっかりと見直すことがいつもできるとは限りません。むしろ、「時間が足りない！」と感じることの方が多いのではないかでしょうか。こうした模試を通して、自分なりの時間配分が行えるようにしたいものです。その第一歩として、試験開始時に必ず一通り問題に目を通し、大体の時間配分を考えることを習慣づけてください。明らかに時間が足りなそうであれば、できそうな問題から手を付けていく必要があります。

受験中に余裕があれば、自信がない問題、あとで見直しをしたい問題に印を付けておきましょう。また、模試を受けているときに「こうしておくとよい」など気づいたことがあれば、休み時間を活用して忘れないうちにメモしておくのもよいでしょう。模試は弱点克服のために受けていることを意識して臨んでください。

【模試受験後の振り返り】

模試の受験を通して最も大切なのが、受験後の振り返りです。以下の1～5の段階に分けてやってみましょう。

◇受験当日～2, 3日以内

1. わかる範囲で自己採点。解説を見てもわからない記述は、各教科の先生に見てもらいましょう。
2. 「解答・解説集」をもとに模試の問題の見直し。間違えた問題や分からなかった問題（たまたま合っていた問題も含む）について理解しましょう。

3. 時間が足りずに手をつけられなかった問題に挑戦し、解答を見て自己採点。解いていたら何点プラスになっていたのかを把握し、次回からの時間配分の参考にしましょう。

◇結果返却後

4. 自己採点結果と突き合わせて自己採点が合っているかを確認。国公立大は共通テストの自己採点を基に出願校を決定します。自己採点のミスは致命的です。
5. 間違えた箇所について解きなおし。ただ知識がなくて解けなかったのか、焦ってケアレスミスをしてしまったのかなど、間違った原因を把握しましょう。改めて理解していないと感じたところは「解答・解説集」に戻り確認をしましょう。

模試はやってしまいがちなミスや弱点分野を自覚し、繰り返してミスしたり間違えたりしないようにするためのものです。また、模試は重要問題の宝庫です。分からなかった問題はノートにコピーを貼るなどして、いつでも復習できるようにしておくと便利です。模試で解けなかった問題をノートにまとめていけば、自分だけのオリジナル問題集になります。英単語や古文単語で意味が分からなかったものは、自分の単語帳に加えましょう。

どの学年にも言えることですが、模試を受けっぱなしにするのはもったいない。入試本番の予行演習の意味を込めて、ぜひ一つ一つの模試を大事に受けてください。

○分野別模擬授業実施

2年生を対象に、10月22日（水）に分野別模擬授業を実施しました。講師の先生の所属と講演タイトルは以下の通りです。

- ・早稲田大学国際教養学部「Who was Himiko?」
- ・早稲田大学先進理工学部「自然界の対称性と素粒子の理論」
- ・東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座「一流の脳神経外科医を目指して大切にしてきたこと」
- ・千葉大学法政経学部「法学と労働法の基礎」
- ・東京学芸大学先端教育人材育成推進機構「日本の「教師」について考える」
- ・電気通信大学情報理工学域 II類（融合系）計測・制御システムプログラム「脳とこころとからだをハックする」
- ・上智大学理工学部機能創造理工学科「持続可能な鉄道と数学・物理・英語」
- ・筑波大学システム情報系「後悔が生じるメカニズムと対処法」
- ・聖路加国際大学看護学研究科遺伝看護学「遺伝と看護医学と心をつなぐ対話」
- ・北里大学薬学部「くすりの上手な使い方－医療現

場で活躍する薬剤師」

- ・東京都立大学人文社会学部人文学科フランス語圏文化論教室「フランス絵画の作品を分析する方法」
- ・慶應義塾大学経済学部「応用経済理論」
- ・東京大学プラネタリーヘルス研究機構「インスリン様ペプチドの生理活性に関する研究」

2年生は現在、来年度の科目選択の予備調査が終わり、12月に本調査を控えています。大学分野別模擬授業は、進路を考える上で非常に有意義な機会であり、生徒たちはみな真剣に講義を聞き、大きな刺激を受けていました。3年次の科目選択をするということは、文理選択だけでなく、志望部分や、志望校が決まっているということです。1年生は来年の今頃には志望校が決まっていなければならないという事を理解し、進路について考えてください。

○赤本が入荷しました！

2026年度入試用の赤本が入荷しました。進路資料室（赤本部屋）奥の棚の上にあります。PTAからも補助をいただいて購入しています。大切に扱ってください。

※最新版（2026年度）は閲覧のみです。

先輩からの言葉

なんのために勉強を
～グスタフ・マーラーの「復活」(Auferstehung)を聴きながら～
公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 常務理事
15回生 横田 堯

1960年、都立新宿高等学校に受かった喜びに浸るもの、その次の大学を思い描くことはなかつた。受験から解放され門をたたいたのは、屈指の伝統と、オリンピックでヘッドコーチを務められた、武富邦中先輩直伝の米国のセオリーを誇るバスケットボール部。練習も厳しく、とても気分転換で取り組めるクラブではなく、ひ弱な私は毎晩バタンキュー。精神力も伴わない私が高校時代に身に着けたものは、辛い練習をやっと乗り切った自信と、家族ぐるみの繋がりになる部員仲間との友情だけでした。

なんのために大学受験をするのか？それさえわからぬまま、机に向かう気力もなく、クラシック音楽に耽溺し、壁にはAuferstehungのいたずら書き。その結果、当然の敗退。自堕落な浪人生活が祟り、再々受験直前に入院。多くの友がすでに一流大学で生き生きとした生活をしている中での落ちこぼれ。その自暴自棄の病床から、夕陽を背に、ゆっくり階段を上って来る小さな影が見えました。私を幼い頃から診てくださった老医師でした。

「たかし君、かわいそうなことをしたね。もう大丈夫だから」

なにが大丈夫なものか！と卑屈になっていた私。しかし、なぜこんなみじめな身に、脚を引きずってまで声を掛けに来てくださるのだろうかと。思い直しました。輝かしい立場になれどとも、人の役に立てる道があるのではないか？もっと苦しい境遇の方の手助けはできるのではないか？これが人生の転機になりました。

それからの私は、求められたことはお引き受けし、粉骨碎身取り組むことにいたしました。こんな私なのに求めてくださると、感謝の気持ちでした。

求められたこととして、高校で身に着けたバスケットの基礎も合わせ、大学のキャプテン。母校女子のコーチ。会社でも男女バスケットボール部を作り、指導したこと。

これらの活動は全て、新宿バスケの同期の友情に支えられてのものでした。所沢連盟の会長もお引き受け。力はなかったものの、ひとつの事を長く続けて得た張り合いでした。

その日々で得たものは、人が嫌がること、喜ぶことを肌で感じ、グループを支えるには自分を減して、且つ誰も排除しないと云う信条でした。

そんな心模様は、聴くのが大好きだった音楽に、コーラスで参加する喜びの発見につながりました。これは一人が目立つことではなく、人の和がとても大事な活動です。

新宿高校のPTAも頼まれ、その会長として同期の作曲家池辺晋一郎氏を擁して「新宿高校音楽の夕べ」を開催。PTA役員さんのご活躍を得て、母校の一面を世間に知らしめたと自負しております。

この活動で一気に音楽仲間が増え、会社でのコーラス活動の団長生活も相まって、バスケの横田から音楽の横田へと生まれ変わりました。新宿バスケの仲間が率いるオーケストラの演奏会で、マーラーの「復活」の合唱も経験しました。

幸い音響の会社で、経営者も音楽を大事にする企業体質でしたので、普通なら道を外した社員なのに、老後の道として創業者が創設した公益財団法人音楽鑑賞振興財団を紹介してくれました。現在は著名な音楽解説者や演奏家などと膝を交え、社会によりよい音楽を楽しむ機会をお届けする日々、そうです。

「復活」できたのです。

そんな私の言葉ですが、自信満々な人に他人は心を開いてくれません。心が弱くないと読み手を打つ詩が書けません。弱いリーダーだから周囲が助けてくれます。

高校選抜に受かった人なら、なんらかの役目は求められます。取るに足りない役であっても誠心誠意尽くす、その姿は、だれかが見てくださっている。そして新しい役割が求められます。支援者が現れます。経験が膨らみます。

私は、そうした日々から、人と接するときの極意として、温か味と、ユーモアがとても大事だと知りました。人と交わり、人の役に立てること。それが生きる力です。

そんな心境の今、残念に思うことは、優れた人々、専門家と接する上で、勉強はするべきときにしておけばよかった。たとえ受験勉強でも。こんな気持ちです。

皆さんも明日を信じ、より豊かな心で過ごせる明日を引き寄せてください。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)

※今後の予定（進路関係）

11/ 4(火) 3年ベネ駿共テ模試

11/ 5(水) 3年ベネ駿共テ模試、1, 2年進研模試